

# 見附市教育センターだより



〒954-0052

見附市学校町2-7-9

電話/Fax 0258-62-2343

E-mail [mrisen@mitsuke-ngt.ed.jp](mailto:mrisen@mitsuke-ngt.ed.jp)

令和8年3月12日 NO. 12

石地町：春を待つ「笠地藏」

## 「忘れられない出会い」

教育センター運営委員(新潟小学校 校長) 本間 貴子



もう、37年も前のことです。当時、私は東京の大学に通う4年生でした。卒業式までの数日間、運転免許取得のため新潟の実家に戻っていましたが、卒業式のリハーサルに出席するため、前日の夜、東京のアパートに帰りました。ふと、郵便受けを見ると、見慣れない茶封筒が目に入りました。もしかして…と気になり、それを開けてみると、『新潟県新採用教職員面談会について』と書かれていました。「ついに来たー！」と喜んだのもつかの間、その面談会がなんと翌日ではありませんか。時刻は夜の9時をまわっていましたから、東京発新潟行き最終の新幹線には間に合いません。当時、夜行列車も出ていましたが、問い合わせると満席とのこと。途方に暮れ父に連絡すると、父は迷わず「タクシーで帰って来い！」と言いました。

私は、面談用に用意していたスーツを抱え、最寄りの町田駅に走りました。タクシー乗り場は順番を待つ人の列ができていました。一台、また一台とお客を乗せてタクシーが出ていきます。いよいよ私の番です。私はタクシーに乗り込み、ドキドキしながら「新潟までお願いします。」と伝えました。運転手さんは、一瞬言葉を詰まらせたが、「分かりました。」と返してくれました。運転手さんは営業所で新潟の天気を確認し、タイヤチェーンとスコップを積んですぐに出発してくれました。関越トンネルを抜けたとたん、3月とは思えないほどの猛吹雪。運転手さんにとっては初めての雪道。タイヤチェーンを装着し、高速道路の路肩をゆっくり走りました。家に着いたのは朝方でした。6時間以上休まず車を走らせてくれた運転手さんに家族で何度もお礼を伝えました。すると運転手さんは、「自分にも同じ年頃の娘がいますから…。よほど大事な用があるんだろうなと、迷わず新潟へ向かおうと思いました。」と笑顔で話してくれました。その後、私は無事、新採用教職員面談会に出席することができました。

あの日、運転手さんとの出会いがなければ、私は教職の道を歩むことができなかったかもしれません。毎年3月になると、言葉では表せないほどの感謝の気持ちがこみ上げてきます。

私は今年、還暦を迎えます。節目の一年です。これまで以上に、一日一日を大切に過ごしていきたいと思います。



## 巻頭写真に寄せて 「春を告げる花、卒業生の成長、お地蔵様…」

◇2月下旬の暖かな日に散歩に出たら、しだれ梅を見つけた。(右写真)  
この花を見たら、中学校の卒業式が近いことを思い出し、今年は担当を外れたが、昨年、訪問したA中学校の3年生の生徒たちを思い出した。

◇彼らに卒業前に会いたい。もう一度彼らの授業の様子が見たくなり、翌日会い(参観)に出かけた。2学級を理科や英語、社会等を2時間ずつ見せてもらった。全員が真剣に学習をしていた。休み時間に「久しぶり～」と声をかけてくる生徒もいて、「中学校はどうだった？」と尋ねると、「うん、楽しかった。」との返事に嬉しくなり「良かったね。」に続いて「高校も楽しいんだよ。頑張ってるね。」と言うと、にこっとして「はい。頑張ります！」と返ってきた。理科の班毎の実験、英語の隣同士の会話。穏やかな表情で学び合い、皆、仲が良い。立派になった生徒たちから元気をもらった。さらに、翌週A中学校の卒業式に参列した人から、「素晴らしい卒業式で、卒業生の歌には大感動でした。」と教えてもらった。高校生活は困難もあるだろうが、彼らの未来に「前途洋々の日々が続きますように。」と願った。

◇さて、「3月号に相応しい巻頭写真を何にしようか」と悩んでいた時、B出版社の国語2年の教科書を見たら、工藤直子の「ふきのとう」が載っていて心温まった。お話は、竹やぶと雪、ふきのとうの会話にお日様が笑い、春風を起し、春風が息を吐き、ふきのとうが土から顔を出すというもの。このお話のような写真を撮ろうと庄川平地区に出かけた。山の斜面はかなりの雪が残り、竹やぶはあるが、ふきのとうはまだ土の中という状態で、がっかりしながら集落の外れに出た。そこに、寒い冬を笠とよだれかけで耐え忍んだお地蔵様がいた。(巻頭写真)2年国語の教材「かさこじぞう」の世界に、自然と笑みが出てシャッターを切った。田んぼの雪は多くが解け、あぜ道が露出していた。頬に当たる風は冷たいが、日差しには春が感じられた。



## コラム 「年度末は、一年間の『振り返り』をしましょう」

◇年度末、自分の仕事を振り返ってみた。まずは「師がく」についての反省。

私は子どもたちとの触れ合いと、子どもの側から見る授業参観が大好きで、これは上述のように、今年担当しなかった学校も含め、師がくを終了した3学期にも多数訪問して、授業を参観させてもらったり、子どもたちと給食を共にさせてもらう等して頑張れた。

◇次に「4時から夢塾」は、喫緊の課題解決等に16講座を開催した。講師の先生方からは、事例を基にした丁寧なお話や分かり良い授業をして頂いた。どの講座も良かったが、参加者が少ない講座があり、次年度は市内の先生が講師の講座は、オンラインでの講座を実施したい。

◇さて、私の仕事に「教科書センター」がある。教科書改訂時に、教科書会社から見本本が当センターに送付されてくる。この本を管理保管し、貸し出し業務を行っている。今年度、借りに来た人は3名であった。先生方に活用をして頂く努力が足りなかったと深く反省している。



## = 教材研究に「教科書センター」の活用を =



◇教科書は、文科省検定済教科書で、数は異なるが何社もの会社から出されている。前述のように、教育センターでは各社の教科書を保管をしている。見附市採用教科書は、見附市の子どもが学ぶに相応しいものが採択されているが、学級の子どもたちには、教材によっては、別の教科書が適しているかもしれないし、比べてみることで、授業者の教材研究に大変に役立つ。一例を挙げる。国語5年に「大造じいさんとがん」がある。手元にある3社の教科書のめあては、C社は「考えたことを伝え合おう」D社は「読みを深めよう」E社は「物語の魅力を伝え合おう」である。また大造じいさんの挿絵を見ると、C社が手拭いを被った後ろ姿、D社が白髪のじいさん、E社が30代の頃のものであり、E社は本文の始まりの前に「72歳のじいさんの家の炉端で、じいさんから35、36年前のがん狩りの様子を聞いている」という序章が載っている。同じように、他の教科や教材でも違っている。学びが多いので活用して欲しい。(こ)

# 3月 科学教育部



木工用ボンドと絵具で作った  
ミニチュア食品サンプル

（左上：目玉焼き  
左下：ホットケーキ 右：寿司4貫とがり）

## 【誰もが使える理科室にしましょう！】

年度末の事務処理等、お疲れ様です。私たちが仕事をする環境を整えることは、とても大切です。理科に関しては、理科室・準備室・薬品庫などの環境を整えておきましょう。今年度の授業の中で気になったこと、例えば「この道具がなかった！」「教具の場所がわからない！」といった点を、今のうちに解決しておくこと、新年度の授業を円滑に進めることができます。

### <薬品や実験道具が不足していないか確認しましょう！>

今年度中、もしくは来年度の開始時に注文しておきましょう。また、注文が難しい場合は、次の担当者に確実に引き継ぐようにしましょう。

### <教具の場所をわかるようにしましょう！>

教具の保管場所がわかるように、名称を記しておきましょう。大人も子どもも場所がすぐにわかるようにしておくことが大切です。場所がわかれば、児童・生徒は自分たちで準備できるようになります。私たちの負担が減るとともに、児童・生徒の考える力も育ちます。

### <不要な教材を処分しましょう！>

理科室の中には、「いつのものだろう？」と思うような実験教材として使われていないものが残っていることがあります。1年間使用しなかったものは今後も使用しない可能性が高いと考えられます。時間に余裕のある学年末のうちに処分しておくこと、理科室もすっきりします。

### <教具をきれいにしましょう！>

落ちにくい汚れも、薬品を使うと落としやすくなる場合があります。年度末の清掃に役立つ薬品もあります。なぜその薬品で汚れが落ちるのかといったことも、生活の中にある科学の一つです。



汚れた  
集気びん・・・



クエン酸水溶液  
を入れる

30秒～1分で  
次のビンに移す  
だけ！



簡単にきれいになります！

誰もが使いやすい理科室の環境にすることは、未来への投資にもつながります。できることから少しずつ取り組むことで、自分だけでなく、全体の負担の軽減にもつながります。

## 【小学校の新年度の最初の学習準備】

4月になると、新しい学年での授業が始まります。中には、理科を初めて担当する先生や、担当学年の授業を初めて受け持つ先生もいらっしゃるかと思います。今年度のうちに理科主任の先生を中心として、校内全体で教材準備の計画を立てましょう。

3年生	1 しぜんのかんさつ 2 植物を育てよう 3 かげと太陽 4 チョウを育てよう	・虫めがね、観察板 ・ホウセンカの種、ヒマワリの種 ・遮光板、温度計、方位磁針（北を指しているか） ・キャベツの苗
4年生	1 季節と生き物 2 1日の気温と天気	・ヘチマの種（予備は多めに準備） ・温度計、百葉箱など気温の観察道具の点検
5年生	1 ふりこの運動 2 種子の発芽と成長 3 魚のたんじょう	・振り子の実験器 ・インゲンマメの種、ヘチマの種、アサガオの種 ・メダカの水槽
6年生	1 ものの燃え方と空気 2 人や動物の体	・ろうそく、集気びん、底のない集気びん、ふた、燃烧さじ、石灰水、着火装置、線香、気体検知管とポンプ、実験用気体ボンベ（酸素、二酸化炭素、窒素を班の数+予備2～3本）、安全めがね ・ポリエチレンの袋、石灰水、安全めがね、気体検知管とポンプ、ヨウ素液、乳棒、乳鉢、温度計

## 授業実践紹介 ～校舎を露頭に見立てたシミュレーション活動～

### 【単元：中学校第1学年 大地の活動 第2章 地層 ～大地から過去を読み取る～】

近年、クマの出没の増加やバスの手配・時間確保の難しさから、理科の授業で露頭観察に行くことをためらう学校が多いと聞きます。実際の露頭観察で得られる体験は貴重ですが、実施のハードルが高くなっているのも事実です。そこで、中西・山崎(2016)を参考に、露頭観察の代替や事前・事後学習として、校舎を露頭に見立てたシミュレーション活動を行いました。

**課題** 「ミチュー露頭」はどのような層になっているのだろうか？

まず、生成 AI で作成した「校舎が地面から隆起するイメージ動画」を提示し、校舎を「ミチュー露頭」と名付けて課題を設定しました。その後、生徒は、班ごとにA～Pの16の地点を探索し、ボーリング資料の代わりとなる柱状図シートを観察して、それぞれの地点の柱状図を記録しました。さらに、離れた柱状図の間がどのようにつながるのかを話し合い、「ミチュー露頭」の全体像を明らかにしました。生徒の振り返りから、ダイナミックな活動の面白さや、ボーリング調査や柱状図の役割を理解できた様子が窺えました。

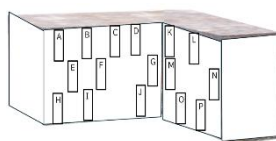
「校舎を歩いて地層をイメージしながら調べることができた。」

「ワークシートが立体にできて、想像しやすかった。」

「離れていても、一部がわかれば地層がつけられた。」



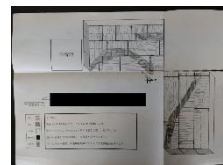
生成AIで作成した  
イメージ動画



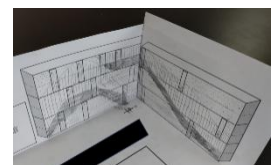
校舎内の16地点



柱状図シート  
右は拡大写真



生徒が記入した  
ワークシート



立体にした  
ワークシート

※ 参考文献：中西裕也・山崎博史。「校舎内の壁を利用した地層観察の模擬体験活動—地層の広がり把握するための高等学校地学基礎での実践—」。日本地学教育学会。2016。69巻。2号。p73-83.